

神奈川県自閉症協会では、神奈川県発達障害支援センター（かながわA）や相模原市発達障害支援センターからアドバイザーをお迎えして、自閉症スペクトラムの方々を対象に、年3回懇談会を開催しています。

今回は20～40代の10名からお申込みがあり、参加は8名（うち女性は2名）でした。

☆ 第1部の共通テーマは「異性について」

学生時代や職場・親も対象とした、幅広い「異性」について意見交換しました。

<慎重派>

- ・やり取りに苦勞する。遊びに行くのは苦手。買い物も黙ったままになってしまう。
- ・高校生頃から周りが異性に興味を持ち始め、不思議だった。
- ・異性同性関わらず、人との距離感がよくつかめなかった。
- ・女性はその場限りにおいて敏感だし、手玉にとられそう。
- ・信頼してよいのかわからない。
- ・共通の趣味などを通してある程度仲良くなると、仕事や年収を聞かれるのが辛い。



<興味あり>

- ・女性の方が距離感があるので接しやすい。（距離をとっても違和感がない。納得！）
 - ・サバサバした男性っぽい女性は、対等な感じで接しやすい。
- お相手が面白い人だったからと、2カ月で結婚を決めた方もいらっしゃいました。

☆ 第2部は、皆様から提起された話題についてです。

ハートネットTVで放映された、発達障がいをお持ちのラッパー「GOMESS」氏の歌詞から話題は広がりました。中島みゆき氏の「命の別名」や、スウェーデン映画「シンプルシモン」などもおススメです。

また、音楽の話から学生時代の部活動へも話が及びました。吹奏楽部（打楽器・チューバ）や軽音楽部（ベース）パソコン部・テニス部など。やはり個別活動の方が楽しめそうですね。

その後、国による障がい理解の差異から、障がいをどう捉えるかという話になりました。異質だけど肯定するしかないのご発言に、「少数派」なだけではないかとスタッフから意見が出ました。単一民族で島国の日本では、どうしても多様性が認められにくいようです。まずは知ってほしいと、私達も啓発活動に力を入れています。

「伝えたいことがあるが、相手に伝わっているのかわからない。」

話が長くなり、相手に押し気味だと言われるとのご発言には、様々な助言が出ました。気持ちを得意なイラストで表現したり、（好評だったそうです）因果関係や進行などを板書したりと、視覚的に把握しながら伝えていくと、整理できるようです。話の途中で介入するのは逆効果な例も提示され、改めて自閉症対応の好例を学びました。

今回のテーマから、母親との関わり方も垣間見え、自立に向けた支援についても、気づきの多い時間となりました。ご参加の皆様、ありがとうございました。